

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第416号 平成24年10月18日

ノーベル平和賞

今年のノーベル賞については、日本人の山中京都大学教授が生理・医学賞を受賞し、大いに盛り上がっていますが、こうした中、平和賞には欧州連合（EU）が選ばれ、話題を呼んでいます。

ヨーロッパは2度にわたる世界大戦の舞台となり、各国に甚大な被害をもたらしました。ヨーロッパ各国は、その反省に立って、2度と戦争は起こさないという不戦の誓いの下、

- ・1952年 「欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）」の設立
- ・1967年 「欧州共同体（EC）」の設立
- ・1993年 「欧州連合（EU）」の設立

というように、経済や政治の統合を進めて来ました。

ヨーロッパが地域統合に取り組み始めて今年で60年が経過する中で、欧州連合のノーベル平和賞の受賞には大事なメッセージが込められているように思います。

野田総理大臣は、今回のノーベル平和賞の決定を受け、バローソ欧州委員会委員長等に対して「この度の受賞は、欧州連合が過去60年以上にわたり、欧州及び世界の平和と和解、民主主義、人権の促進に多大な貢献をしてきたことの証左である。」との祝意を表しています（外務省資料による）。

「欧州石炭鉄鋼共同体」設立時の参加国は、フランスや西ドイツ等6か国でした。それが今では、欧州連合への参加国は27か国、域内人口は5億人を超えると共に、27か国のGDP総額は約1.8兆ドルにも及んでおり（ジェットロ資料による）、世界経済にも大きな影響を与えています。

しかし今、欧州連合は極めて厳しい経済危機に喘いでいます。ギリシャの債務危機はイタリアやスペインにまで広がりを見せ、ギリシャの欧州連合からの脱落が懸念される程の状況になっています。若者たちの失業は日本の比ではありません。

こうした中で、「何故今、欧州連合にノーベル平和賞なのか」との声もある事は確かです。

しかし、血で血を洗う激しい戦いを繰り広げた国同士が、共に仲間として共生していくという選択は、「特筆すべき壮大な実験」であり（10月13日付道新説）、そこに、人類の英知と忍耐力が詰まっていることは間違いないのです。そして、2

1世紀に入ってもなお戦火の絶えない地球上において、欧州連合が60年間にわたりヨーロッパの平和を支えて来たことは評価されて然るべきであり、日本や中国、韓国はじめアジアに位置する我々もまた、彼等から学ぶべき事は多い筈です。

1994年、イスラエルとパレスチナの平和条約締結に尽力したペレスとアラファトがノーベル平和賞を受賞しましたが、それは、平和への大きな期待でもあったと思います。しかし、その期待は裏切られ、平和は長く続きませんでした。

欧州連合もまた、厳しい局面の中で域内の結束が乱れているように見えますが、私は、今回のノーベル平和賞の受賞を一つの契機として、必ずやこの局面を乗り越え、更に進化して行くものと信じて疑いません。(塾頭：吉田 洋一)